【長沼町】

校務 DX 計画

１．校務系及び学習系ネットワークの統合

現在、児童生徒の個人情報等を取り扱う校務用端末は持ち出しを禁止しており、インターネット経由でのアクセスもできない構成としている。

今後、教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、１台の教職員用端末でネットワークを切り替えて利用できるようゼロトラストセキュリティの考え方に基づき、適切なセキュリティを確保しつつ業務を行えるようネットワークの統合について検討を進める。

２．校務支援システムのクラウド化

現在、統合型校務支援システム（小学校：平成 29 年度～、中学校：平成 27 年度～）を導入し、学校現場において教務・保健・学籍・成績管理などで利用している。

今後は、更なる教職員等の負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化を可能とする環境を構築し教職員の働き方改革を推進するために、教職員と学校現場における課題・ニーズ等の情報共有を図ったうえで、クラウド環境ベースの次世代校務支援システムへの移行等を検討する。

３．汎用クラウドツール・教育データの活用推進

Google Workspace for Education の導入により、全ての教職員に個人メールアドレス、アカウントが付与されており、教職員間の情報共有・連絡や児童生徒の欠席・早退連絡、教職員と児童生徒のデータ共有等で活用している。

一方、「保護者へのお便り・配付物」、「保護者から学校への資料提出」等については活用が進んでいないため、上記２と同様に学校現場における課題・ニーズ等の情報共有を図り、先進自治体の事例も参考としながら、学校におけるクラウドサービスの対象が保護者等にも広がるよう支援を行っていく。

また、１人１台端末とクラウドの活用により、従来は収集できなかった学習活動での各種データ（端末の操作、教材の利用履歴など）と従来の学習データを統合・分析し、校務改善・授業改善に活用できるよう検討していく。